

もも・ネクタリン特報

H29. 6. 30 No. 7
J A 中野市営農センター
J A 中野市りんご・もも部会

今後は、梅雨期の連続した降雨や気温の上昇によって病害虫が多発する時期となります。
せん孔細菌病の発生園では、葉病斑・果実病斑が確認されております。薬剤防除、摘果・袋掛け作業と併せて枝病斑の除去を行ない、引き続き果実感染防止に努めましょう。

殺ダニ剤 散布時のポイント 「すでに、ハダニ類の初期発生が確認されています。防除ポイントを押さえましょう」
① 散布する **3～4 日前に下草刈り**を行なう。（下草に生息するハダニが、樹上に移動するため、防除効率が上がります。）
② 散布時は、樹全体に薬液がしっかりかかるよう、**丁寧に散布する**。（特に、樹冠内部の徒長枝・葉裏にハダニが発生しています）

もも 他作物へ飛散しないよう十分注意する。モモとネクタリンの混植園ではネクタリン防除を実施する。

定期防除 散布時期： **7 月 4～10 日頃** 前回散布から 15 日後

今回から **通常散布** および **せん孔細菌病対策** 共通の防除です。

散布薬剤：	水	1 0 0 ℓ	<table><tr><td>散布日</td><td>7 月</td><td>日</td></tr><tr><td>散布量</td><td></td><td>ℓ</td></tr></table>	散布日	7 月	日	散布量		ℓ
散布日	7 月	日							
散布量		ℓ							
	展着剤	2 0 ml							
	コロマイト乳剤	1 0 0 ml（ 7 日前 、1 回）							
	ナリアWDG	5 0 g（前日、2 回）							
	⑧イカズチWDG	6 6 g（前日、5 回）							

対象病害虫：ハダニ類、黒星病、灰星病、ホモプシス腐敗病、シンクイムシ類、モモハモグリガ、カメムシ類

10 a 当り散布量： 6 0 0 ℓ

【 注意事項 】

①せん孔細菌病の発生が心配される場合は、スターナ水和剤の 1000 倍（**7 日前**、3 回）を加用する。
②殺ダニ剤の効果を高めるため、散布 3～4 日前に下草刈りを行なう。
③ナリアWDGはぶどう（ピオーネ、サニールージュ）、西洋梨ル・レクチェに薬害を生じる恐れがあるので、隣接園は注意する。

ネクタリン

定期防除 散布時期： **7 月 4 日～10 日頃** 前回散布から 15 日後

散布薬剤：	水	1 0 0 ℓ	<table><tr><td>散布日</td><td>7 月</td><td>日</td></tr><tr><td>散布量</td><td></td><td>ℓ</td></tr></table>	散布日	7 月	日	散布量		ℓ
散布日	7 月	日							
散布量		ℓ							
	展着剤	2 0 ml							
	ナリアWDG	5 0 g（前日、2 回）							
	⑧イカズチWDG	6 6 g（前日、2 回）							

対象病害虫：黒星病、灰星病、ホモプシス腐敗病、シンクイムシ類、モモハモグリガ、カメムシ類

10 a 当り散布量： 6 0 0 ℓ

【 注意事項 】

①ハダニ類の発生園は、コロマイト乳剤の 1000 倍（7 日前、1 回）を加用する。
②せん孔細菌病の発生が心配される場合は、スターナ水和剤の 1000 倍（7 日前、3 回）を加用する。
③ナリアWDGはぶどう（ピオーネ、サニールージュ）、西洋梨ル・レクチェに薬害を生じる恐れがあるので、隣接園は注意する。

次頁には管理情報が掲載されております。必ずご覧ください

☆収穫開始期 予想

南部地区	極早生種	7月16日頃～	白鳳	7月30日頃～
平岡地区	極早生種	7月18日頃～	白鳳	8月1日頃～

今後の気象状況により前後しますので、園地の生育状況をこまめに確認しましょう。

＊袋掛け作業は段取りよく進めるとともに、収穫前の着色管理(除袋・反射マルチ・葉摘み等)は遅れないようご注意ください。（極早生種注意）

○もも・ネクタリン肥大調査（6月25日現在）

【あかつき】

項目	縦径(cm)	横径 (cm)	幅 (cm)
測定値(cm)	4.7	5.0	4.7
前年比 (%)	90.4	92.6	90.4
平年比 (%)	100.8	106.5	106.4

【ファンタジア】H28から調査圃場変更のため平年比は記載なし

項目	縦径(cm)	横径 (cm)	幅 (cm)
測定値(cm)	4.6	4.1	3.8
前年比 (%)	88.5	93.2	88.4

【川中島白桃】 H26から調査圃場変更のため平年比は記載なし

項目	縦径(cm)	横径 (cm)	幅 (cm)
測定値(cm)	4.2	4.5	4.1
前年比 (%)	93.3	95.7	93.2

今後の管理

◆仕上げ摘果・袋掛け

- ・袋掛けは、7月上中旬までに終了するよう間に合い次第進めましょう。
- ・スレ、サビ、うどんこ病（毛じ障害）、せん孔細菌病等が散見されます。摘果の際は注意しましょう。

◆夏季管理

- ・日焼け防止・・・幹の太さが直径10cmを超えると、主枝背面が日焼けをおこしやすくなるので、フジホホワイト等を塗布する。また、背面の弱い新梢は日焼け防止に残しておく。
- ・徒長枝切り・・・背面から発生した発育旺盛な新梢を中心に徒長枝切りを行なう。（日照・薬剤の到達、樹形の維持のため）
- ・誘引・・・幼木や若木に対して、主枝や亜主枝養成のために行う。樹液の流動が盛んになり、枝がやわらかくなる夏季に実施する。
- ・支柱立て・・・主枝、亜主枝の垂れ下がり、枝折れ防止対策として実施する。
特に雪害を受けている樹は、支柱による補強を十分に行なう。

◆下草管理 園内除草を徹底しましょう。 隣接園地に飛散しないようご注意ください。

除草剤使用基準・・・ 10a 当り バスタ液剤またはザクサ液剤 500ml 水量 100～150ℓ

農作業中の事故にご注意下さい

- ・ハシゴは、チェーンや紐で止め、開かないようにして使用する。
- ・ハシゴの一番上の段に上っての作業は行なわないようにする。
- ・梅雨期は降雨により地盤が緩みます。傾斜地でのハシゴ・SSの走行等に十分注意する。

